

# 若手職員特別座談会

## Theme 1 厚生労働省を志望した理由は

**工藤**：厚生労働省に興味を持ったのは、私たちの生活に直接関連する分野を扱っていて、身近な感じがしたから。ただ、実際にここで働きたいと思った理由は、面接で出会った職員の方々が、本当に熱い思いを持って、真剣に仕事に取り組んでいて、その話にすごく感銘を受けて、この人たちと一緒に仕事がしたい、この人たちみたいになりたいと思ったから。

**肥沼**：私は、大学のゼミで社会保障のテーマを扱ったことが、厚生労働省に興味を持ったきっかけ。この国には、様々なバックグラウンドの人が暮らしていて、何を幸せと考えるかも一義的に定義できない。少子高齢化が進み、財政状況も厳しい中、絶対的な答えのない、「誰もが安心して暮らせるように」という課題に対して、あるべき論を論じるだけでなく、多くの人の意見に耳を傾け、考えの異なる人々を説得しながら、皆が納得できる制度を作りたいと思い、志望しました。

**藤野**：大学時代にユーラシア大陸を放浪していたことがあって、その時に社会システムが人々の日々の生活に深く影響を与えていることを改めて実感し、そうした社会システムを担う一端に関わりたいと思い志望。自分にとっても、公務員の仕事は常に新しい仕事にチャレンジできる魅力的な職場だし、厚労省ならば、挑戦すべき仕事がなく困ることは当たらないだろうと思ったので。



**坂本**：一風変わってるけど、実は、学校の先生になろうと思ってました。大学も教育学部だし、実は教員免許も取得してます。それでも今厚労省にいるのは、自分の思い描いていた「教育」というものがここでもできると思えた、そう思わせてくれる魅力的な人がいたからだとしみじみ思います。

## Theme 2 若手職員が思う厚生労働省とは

【厚生労働省のココがいいところ!】

**肥沼**：私が感じるのは、若手のうちから、いい意味でどんどん仕事が回ってくる。3年目くらいになると、1つの案件について、背景を調べ、資料を作り、課の内外の調整を任せられ、というように自分がグリップする役割ができたりして、大変ではあるけれど、やりがいを感じるな。

**工藤**：私もすごく同感。他省庁に比べても、若手のうちからの経験できることはかなり多いと思うし、仕事の内容も国民生活に直結することだから、使命感とか、情熱とかを持って仕事ができる。

**藤野**：他にも、知識面でも人間的にも心から尊敬する先輩も多く、自分のこれまでの概念を覆すほどのすごい人たちがいる。現場、学者、メディア、NPO等、多くの人に出会えるというところが厚労省の魅力だと思う。



【ここはダメだよ厚生労働省!】

**藤野**：日々の雑件に埋もれてると、「誰のために、何のためにやっているか」ということ

を忘れがち。後から振り返ると「必要だったっけ?」というようなメールや調整が多くなり、その結果、帰宅が遅くなることも。でも、よく考えると、その原因が自分だったりすることもある(笑)。反省。

**工藤**：私も同じで、改善すべき無駄が多いと思う。例えば、説明するためだけの資料を、時間かけて体裁にこだわったり、会議がだらだら長かったり。

**坂本**：無駄が多いという意見が多いけど、それは裏を返せば、これからどんどん変えていくことができるってことだね。省内の若手プロジェクトチーム等でも業務改善の提言をしてるし、若手を中心にそういった意識が高いと思う。むしろ、これから入省される方の斬新なアイデアにも期待だね。

## Theme 3 平成20年入省者の〇〇な話

**坂本**：ここからは少し趣向を変えてフランクな内容に。今日は特製サイコロ用意してきたので、各自振ってもらって、出た面に書かれたテーマについて話してもらいます。もう4年目なので、急に話題を振られてもスラスラ話せると信じてます(笑)。

**工藤**：私の失敗談(笑) これはちょっと披露するのが恥ずかしいんだけど、翌日国会で使う資料を提出していないことが、前日19時に判明して、あわてて大量コピーして国会議事堂へ。なのに、両面コピーがすべて片面になっていて紙の裏が真っ白、同時に、自分の頭も真っ白という経験があったよ。幸いにも、翌日朝一に届けられればいいことになったから助かったけど。

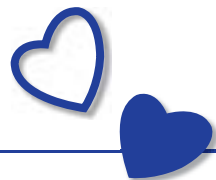
**藤野**：私のリフレッシュ法(笑) 初任研修で

# 「厚生労働省で働く」ということ

## 坂本裕一

(社会・援護局保護課)  
1年目は職業安定局総務課に在籍し、リーマンショック後の雇用対策の策定等に携わる。2年目は労働者派遣法の改正を担当。現在は、生活保護制度の見直しの検討を担当。





知り合った他省庁の同期と飲みに行ったり、旅行に行く。こうした横のつながりはとても心強いし、他省庁からの視点もわかって仕事のためにもなる。あとは、大学時代はバンドをやっていたので、今でもたまにライブを見たり演奏したりします。省内には意外にも隠れバンドマンたちがいて、たまに昔の武勇伝なんかを語り出す人も。。。

**坂本：最近感銘を受けたこと** とある企業の人事担当者のインタビュー記事にあった、「熱心な素人は玄人に優る」という言葉かな。一見すぐ当たり前のことのようにだけ、不思議と心に響くものがあった。やはり、初心を忘れず努力を惜しまないということが精進の第一歩、と柄にもなく真面目なことを言ってみたりして(笑)



**藤野：マイブーム** マイブームというか、厚労省職員らしい真面目な話をすると、社会問題に取り組んでいるNPOなどに話を聞きに行くこと。行政が届かないフロンティアの領域でがんばっている姿を見ると、こちらもやる気が出てきます。彼らは現場に近いゆえに詳しい面もあるし、逆に情報が入りづらい面もあったりして非常に勉強になります。

**工藤：最近感銘を受けたこと** 私は日本企業ではたらく外国人の話を聞く機会が多いんだけど、ある外国人が、「日本の企業では仕事を頼まれたときに、「これはなぜやらなきゃいけないんですか?」とか、「いつまでにどうやってやればいいんですか?」とかを細かく聞くと、仕事をやりたくない意思表示

だととられるから、一度引き受けて、わからないことは時間をあけて聞いたほうがいいと、先輩外国人社員に教えてもらった。」と言っていたよ。こういうことが無駄を発生させる原因なんだなと思った。

**坂本：私の失敗談** つい最近の話なんだけど、通勤電車で乗車すると、なぜか鞆が異様に重い。良く見ると、鞆が電車のドアにがつり挟まってました。そんなことはお構いなしに電車は発車。どうせ次の駅で開くだろうと考えていたら、不幸なことに、鞆が挟まった側のドアが開いたのは、本来降りるべき駅の4駅も先。車内で注目を浴びた上に、遅刻しそうなもなって散々でした。皆さんも朝は余裕を持って出勤を。

**肥沼：私の失敗談** 入省して仕事にも慣れてきた1年目の12月頃のこと。かかってきた電話に出た際に、「食品安全部です」と出るところを、「官房総務課です」と他部署を名乗ってしまった経験あり。電話の相手は、当時の係長の同期の方だったらしく、即係長に通報され、大恥をかきました。なんで間違えたのかは、よくわかりません(笑)。

Theme 4 私達の未来予想図

**坂本：外見も中身も役人らしからぬ格好いいオジサンになりたいです。外見については最低限今の体型を維持(笑)。それと、これは人にもよると思うけど、ファッションにも気を遣って仕事へのモチベーションを高める。中身については、分析、検討、実施、評価というプロセスを、明確な軸を持って、プレずに実行できるようにしたいです。**

**藤野：厚労省の仕事は、例えれば、今は悪**

い芽があちらこちらに生えてきて、もう大変なので必死にそれを刈り取っているイメージかもしれません。それとても大切な仕事ですが、同時にもっと未来に種をまく仕事をしなければいけないと思っています。また、今の仕事をしていて感じるのが、制度、執行両面のプロになりたいということ。いい制度を作っても現場でうまくいことワークしなければ意味がないし、制度改正ごとに大混乱がおこってしまうば信頼も失ってしまうことになります。

**肥沼：将来的に判断する立場になったときに、世の中への影響や反応を予想した上で、的確な判断をできるようにになりたい。世の中の振れ幅を考慮しながら、どの程度のラインを設定すれば理解を得られるのか、という感覚が分かる人になりたいな。あと、「制度というツールを使って、一人一人の暮らしをより豊かにできるといいなあ」という初心を忘れないようにしたいです。**

**工藤：場当たり的な対応ばかりだと、制度趣旨とか、全体のバランスとかを見失いがちなので、常に制度を鳥瞰的に考え、原点に立ち返ることを忘れないようにしたい。個人的には、語学とか経済学とか、勉強も重要。施策立案の際、原理原則をきちんと理解していることは必要だと思う。あとは、極力無駄を減らしたり、仕事の頼み方を工夫して部下を定時に帰せる上司になりたい。**



藤野雅弘

(政策統括官付社会保障担当参事官室)  
入省後最初に配属された保険局医療課にて、平成22年度の診療報酬改定に関わり、35兆円もの医療費の配分をめぐるプロセスを間近で見る。現在は社会保障全般に係る情報化施策の推進を担当。

工藤春華

(職業安定局派遣・有期労働対策部外国人雇用対策課)  
1・2年目は、雇用均等・児童家庭局に在籍。子育てや働く女性の支援に携わる。特に2年目は、児童養護施設など家庭で暮らせない子どもの支援を担当。現在は外国人雇用対策課で、日本で働く外国人労働者の就労環境の整備に取り組む。

肥沼由佳

(雇用均等・児童家庭局母子保健課)  
1・2年目は、医薬食品局食品安全部に在籍。事故米穀の不正規流通問題等の対応や新潟水俣病訴訟等に携わる。現在は、母子保健課にて、主に妊産婦と乳幼児を対象とした施策を扱う。



# 若手職員のある1日の風景

1年目職員(平成22年度入省)とその先輩のある1日を追いました!

## 1年生のある一日。



1年生

食品安全部  
企画情報課企画法令係

田中 久美子

Kumiko Tanaka

食品安全部の「窓口」として、省内各局からの作業依頼について、部内の各課、各担当係に作業を振り分け、提出されたものをチェック。部の意見としてとりまとめ、依頼元に提出する調整役としての仕事です。

### 8:30 出勤

今日も一日が始まります。一足早く出勤して、課内の掃除や新聞チェックをします。

### 11:00 係長に相談

昨日原課から提出された回答案の書きぶりについて、係長に相談。「ここはもう少しこうした方が…。この点を確認してみて。」自分なりに確認していたつもりでも、まだまだ足りないところがたくさん。いつもの確かなアドバイスをいただいています。

### 12:00 同期とランチ♪

今日は同期女子3人で外にランチです。余裕があるときは気分転換に外出もします。何かと相談したり同期のネットワークはいいものです。



### 10:30 官総のボックスへ

朝一のメール確認が終わったら、官房総務課のボックスを確認。最近はメールでの作業が主流ですが、作業依頼や公電等の書類が入っているので、毎日チェックが必要。

### 10:00 課長への説明

政府全体で進めている地方分権について、課としての方針を確認。対応方針は了解してもらったが、問題点を指摘された。外部から反論されても大丈夫なように、もう一度論点を整理しなくては。



### 13:00 資料作成

上司から頼まれていた資料を作成します。過去の資料を参考に、現時点での考え方をまとめます。煮詰まったら上司に相談し、アドバイスをもらいながら作業をしていきます。

### 11:30 農林水産省と協議

食品安全部は、省内よりも農林水産省とやりとりすることが多いです。今日は、農林水産省で見直しを行っている基本計画について意見を提出しました。すぐに電話が来たので、口頭でも趣旨を説明し、内容を検討してもらうことになりました。

### 9:00 出勤

パソコンを立ち上げ、今日の予定を確認。今日中に課長の了解をもらわないといけない案件があるため、課長の予定も確認しないとイケないぞ。午後から会議で外すようなので、それまでに説明しなければ。

## 今日も一日頑張ります!



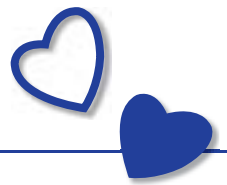
2年生

食品安全部  
監視安全課企画法令係

萩原 竜佑

Ryuusuke Hagiwara

食品安全部の原課の企画法令係として、法令案の作成、通知の作成、課内の意見調整などを行っています。課内の担当者や、とりまとめ課と相談しながら、作業を行って行きます。また、事業者の方や自治体の方からの問い合わせや法令解釈にも対応しています。



### 14:00 電話対応

部の法令の窓口担当として、外部からの電話(特に法令に関する疑義照会)に対応します。最近私が作成に携わった告示について、自治体からの疑義照会。思いがけない質問に戸惑うこともあります。自分が答えた内容が国としての解釈になる責任の重さを常に意識して丁寧に回答します。



### 18:00 会議準備

明日は全国の自治体の食品衛生部局担当者が集まる大きな会議があります。私もお手伝いに借り出されました。当日のメモ取りも頑張らなければ。



### 16:00 一段落

夕方になって少し落ち着いたら、自分の作業です。依頼していた案件をとりまとめたり、回答案を作成して各課に確認をお願いしたりします。原課から提出された案について2年生の先輩と相談することもしばしば。

### 17:00 部長への説明

部内での意見を代表して省外に出す重要なものについては、部長まで説明し、了解をいただきます。係員でも幹部まで説明することは少なくありません。

### 21:00 そろそろ

ひととおり区切りがついて急ぎの案件もないので、明日の予定を確認し、身の回りを片付けてから帰宅です! 早く終わった日には、同期や同僚の方たちと飲み会があったりします。

### 17:00 部長への説明

明日の会議の資料を手渡し、内容を説明します。



### 21:00 退庁

最後に、今日一日の資料を整理します。整理整頓は苦手ですが、文書の管理は重要なので、もれが無いようファイルに綴ります。そして、明日の予定を確認し退庁です。明日も頑張るぞ。

### 16:00 1年生と相談

窓口の1年生と相談。原課としての案を説明し、とりまとめ課の判断を仰ぎます。ここからは1年生が上司に説明することになるので、きちんと説明しておかないといけません。あとはよろしく頼みます。



### 19:30 通知の作成

地方自治体にお知らせするための通知を作成。省令の改正に伴う注意点を自治体にお知らせします。通知の解釈を基に業務を行ってもらうことが多いので、間違いの無いよう慎重に作成します。

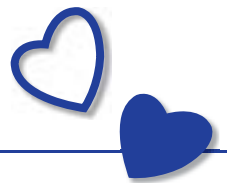


補足:仕事は、官房総務課→各部局のとりまとめ課→とりまとめ課以外の各課(ここでは「原課」とよんでいます。)という流れで進みます。食品安全部は、企画情報課が「とりまとめ課」として部全体の調整などを行い、監視安全課などの「原課」がそれぞれの所掌分野についての業務を行っています。

平成22年度入省者からのメッセージ

最初は右も左もわからなかった平成22年度入省組も、

<p>社会・援護局 援護企画課 市嶋 謙一</p>  <p>入省から早1年。本当にあつという間の日々でしたが、厚生労働省の扱っている行政が国民と密接に関わっており、責任の重さとともにやりがいを感じることもできる職場であるということを実感しています。日々の業務の中、もちろん大変なこともあります。良き先輩方や同期に助けられながら、充実した毎日を過ごしています。このパンフレットをご覧になっている皆様も厚生労働省で充実した日々を過ごしてみませんか。</p>	<p>労働基準局 安全衛生部 計画課 伊藤 憲昭</p>  <p>官僚とは大小様々の切実な声を法規や給付行政という国家行政の言葉に置換する翻訳家だと感じた一年でした。自分は良い翻訳家たり得ているか。自分の担当している分野においては自分が少数の翻訳家である自覚を持たなければと思う日々です。また、普通の「良い翻訳家」だけでは誰でもつとまるので、自分でなければだめだと使う人に思われるような翻訳家になりたいと思っています。厚生労働省は、高い志をもって、優しい心で社会を見据え、国家の言葉に彩りを添える翻訳家たらんとする皆様を待っています。</p>	<p>老健局 老人保健課 大江 裕貴</p>  <p>たまたまこのページを見ている皆さん、こんにちは。私は、より他者に寛容な社会にするにはどうすればいいのかと勝手に考えつつ、一年前に入省しました。一年間、様々な政策に触れ、先輩方と議論する過程で、この職場は、私の勝手な考えを深める上で最適な場だと思ようになりました。今は、仕事に追われ、自分には寛容さが失われているような気がしますが、厚生労働省は、多様な人材を受け入れているという点で、実に寛容な組織です。少しとんがった皆さんをお待ちしています。</p>
<p>職業能力開発局 総務課 大宮 貴司</p>  <p>入省して1年弱が経ちました。入省時、能開局についての知識は0に等しいものでしたが、日々の仕事は刺激的で、学ぶことはとても多いです。局内だけでも本当に色々な課題があって、それも一朝一夕には解決できないものばかり。国民の生活を支えたいという思いを持ち、そういう課題を解決したいという欲求をお持ちの皆さまには、厚生労働省は最適な職場だと思います。また、省内には面白い職員の方々が大勢いますし、意外と(?)自由でチャレンジングな雰囲気です。</p>	<p>労働基準局 労働条件政策課 狩集 勇太</p>  <p>昨年の4月末に配属されてから10ヶ月が経とうかとしています。季節が一巡りして、業務のサイクルが何となく分かった気もしますが、未だに至らないことも多く、お叱りをいただくこともしばしばです。現に、これを書いている今(2月某日)も係長不在というタイミングで重要な事にぶち当たり、否応無しに責任をもって処理せざるを得ず、右往左往しています。しかし、自分の業務の幅がわずかずつとも広がるのはやはり嬉しくもあります(係長の厳しくも温かい御指導に感謝)。上司から、「1年生のときに身につかなかったことは、その後なかなか体得できない」と言われたことがあります。皆さんをお迎えるまで、引き続き研さんを積みみたいと思います。</p>	<p>年金局 総務課 川崎 由季子</p>  <p>めまぐるしく過ぎ去った1年。社会保障制度はこんなに奥が深いのかと日々驚かされます(まだまだ入り口で覗き込んでいる段階ですが)。その奥深さについていけず失敗してはへこむという繰り返しですが、多くの人の支えでここまで出てくることが出来ました。尊敬する諸先輩方のように、いつかは社会保障制度の深淵まで理解できればいいなあと思います。決して楽な仕事ではありませんが、得られる達成感ややりがいはとても大きいです。皆さんと一緒に働けるのを楽しみにしております。</p>
<p>医薬食品局 総務課 黒田 光代</p>  <p>みんなが活き活きと毎日過ごせるために働きたい、と厚生労働省に入省してからもうすぐ1年。本当にあつという間でした。日々何かに追われ、失敗ばかりで落ち込むことも沢山ありますが、周りの尊敬できる先輩方の温かい励ましや助けのおかげで毎日元気に働いています。さて、入って間もない私ですが、「国民の健康を守る」ためのしくみがここから作られているのだ、と感じられる場面は沢山あり、それが私の頑張りへの一番の原動力となっているように思います。みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。</p>	<p>保険局 医療課 古賀 紳介</p>  <p>配属された今の部署の仕事は、診療報酬の算定方式の改定を行うことで医療の値段付けをすることです。一年近く働いて感じたことは、この職場の人達が、みんな本気で日本の「医療」をより良いものにしよとと考えて仕事をしているということです。確かに業務量は膨大で忙しく、自分の仕事のできなさに不甲斐なさを感じる等、精神的にも体力的にもきついことが多いですが、高い志を持った様々な職種の魅力的な人達と一緒に仕事をできることをすごく幸せなことだと感じています。</p>	<p>健康局 総務課 駒田 直之</p>  <p>「人生の意味を考え続けながら働きたい」。そんな思いで入省しましたが、政策一つ一つが国民生活に密着したこの省では、人が生きる意味とは何か、そんな根源的な問いまでさかのぼって仕事をしなければならぬのだと改めて実感しています。忙しくて、仕事に追われたときは、ついそんな最初の気持ちを忘れてしまいそうになりますが、志高い先輩に刺激を受けながら、初心を忘れず充実した毎日を送っています。みなさんも、この職場で僕らの生きる道を探求しませんか?</p>



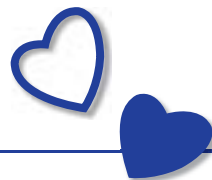
# 今では立派な厚生労働省の一員として頑張っています!

<p>年金局 年金課 <b>佐々木 淳也</b></p>  <p>もし明日、自分ひとりではどうにもできない状況に陥ったら、どうしたらよいでしょう? そう、みんなに助けを求めばよいのです! かわりに普段は、いま困っている人をみんなと一緒に助ける。…そんな「支え合い」を「支える」ことこそ、厚生労働省の仕事。決して華やかではないし、いつも板挟みになるし、うまくいって当たり前だからあまり感謝もされない。けれど確かに言えるのは、未来に向かって「意味のある仕事」だということ。さあ、僕らと一緒にチャレンジングな仕事、してみませんか?</p>	<p>保険局 総務課 <b>陶山 恵里</b></p>  <p>保険局では出産育児一時金制度を所管しているため、医療機関、保険者、妊産婦等の皆様から日々お問い合わせを頂きます。国会業務、法令業務、国際案件等、様々な業務に携わっておりますが、所管制度が現場でどのように運用されているのかについては、お問い合わせを通じて教えて頂くことも多いです。厚生労働省の所管業務は非常に幅広いため、アツイ気持ちを持った人であれば、どの部局に行っても楽しみながら働けると思います。是非、厚生行政の海へ飛び込んで来て下さい!!</p>	<p>社会・援護局 総務課 <b>高橋 亮</b></p>  <p>まもなく入省して一年になりますが、毎日充実してあっという間の一年でした。仕事のやりがいや大変さ、周囲の諸先輩方の優しさといった点で、入省前抱えていた希望や期待に100%応えてくれた職場です。毎日の業務は簡単ではありませんが、皆さんが入省してくるころには、立派な先輩となれるよう、日々精進していこうと思います。是非一緒に頑張りましょう!きっと皆さんの様々な希望にも応えてくれるはずです。</p>
<p>医薬食品局 食品安全部 企画情報課 <b>田中 久美子</b></p>  <p>あっという間の一年間でした。当たり前前の生活を当たり前前までさせる社会を支える制度作りに関わりたい、そう思って厚生労働省を志望しましたが、その当たり前前を作るこそ、いかに難しいかを考えさせられる毎日です。 日々数多くの情報が飛び交い、常に「動いている」職場です。ありきたりかもしれませんが、私たちに最も身近で、生涯のうち誰もがダイレクトに影響を受ける行政分野をカバーしているのが厚生労働省の魅力。だからこそその抱えている業務の影響力の重さや大きさは、仕事のやりがいに直結すると思います。まだまだわからないことだらけで、自分の知識の足りなさや視点の狭さに落ち込むことも多々あります。常に思うのは、もっとたくさんものを見て、経験をして、話を聞いて勉強しなければということ。私たちのする決定や解釈一つが現場で働く方たちや、誰かの生活をも変えうることを意識し、これから先もまっすぐに仕事に向き合っていきたいと思っています。</p>	<p>社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 <b>田中 奈緒子</b></p>  <p>「障害、加齢、貧困等による社会的排除を克服したい。」という思いを胸に、希望の障害行政に飛び込んではや1年。未熟な自分に愕然としながら、障害行政のただ中にいる行政官としての責任を果たさなければ、と焦燥感に駆り立てられる日々です。自分一人は取るに足らない存在ですが、社会保障のあり方が最大の関心事であるこの時代に、厚生労働行政に当事者として携われる、というのは確かです。傍観者でなく当事者として、一緒に社会保障の将来を描きませんか。</p>	<p>労働基準局 労災補償部 労災管理課 <b>田中 里愛子</b></p>  <p>入省して1年、所管制度の難しさに悪戦苦闘し、時にはプレッシャーに負けて逃げ出しそうになることも…。そんな中、今日も業務にあたることができるのは、ひとえに、あたたかく指導して下さる諸先輩方と、「この人たちのために働きたい!」と思い入省した、家族や友人など、大切な人たちの支えがあるからです。厚生労働省は、自分の大切な人だけでなく、大切な人の「大切な人」…と、多くの「大切な人」たちの支えとなる仕事ができることです。ぜひ一度、話を聞きに来てみて下さいね。</p>
<p>老健局 総務課 <b>富永 華子</b></p>  <p>全ての子どもたちに健全な発育の場と能力に応じた活躍の機会が与えられるように。この国に生まれて良かったと思って死ぬことができるように。こんな思いを抱いて入省しました。介護保険法の改正、規制改革、国際会議の準備、国会対応……。勤弁してくれ、とつぶやきとなるくらい目まぐるしい日々。仕事に溺れ、初心を忘れてしまいそうにもなりますが、喜怒哀楽に事欠かず、ここでしかできない仕事、神のような上司、鳥肌が立つような瞬間に出会える舞台です。あなたのまだ知らない厚生労働省がここにあります。</p>	<p>雇用均等・児童家庭局 職業家庭両立課 <b>富安 知翔</b></p>  <p>入省して早1年。本当に周囲の方々に恵まれ、充実した日々をすごしています。官庁訪問の時、このような人たちの中で働けたら幸せだなと思いましたが、実際、今幸せです。厚生労働省の扱う仕事は生活に密着しており、責任の重さを感じますが、その分刺激や達成感、やりがいがあるのだと思います。まだまだ、分からないことばかりで日々悩むこともありますが、魅力的な諸先輩方を目標としつつ、一步步成長していければと思っています。</p>	<p>職業安定局 派遣・有期労働対策部 需給調整事業課 <b>永倉 真紀</b></p>  <p>人々の生活に直接関わる分野を扱う厚生労働省で、より多くの人の力になれば…と思い、入省して早1年…ですが、実感はまるでありません。未だ入ったばかりのひよっこです。日々、実力のなさを痛感しつつ、周囲に助けられながら働いています。厚生労働行政は、国民の生活へ多大なる影響を与えます。それゆえの責任は大きいですが、やりがいも大きいはず。厚生労働行政に興味がある方、人の役に立ちたい方、ぜひ一緒に働きましょう!あ、職員は優しい人が多いので安心して下さい(笑)</p>

平成 22 年度 入省者からのメッセージ

<p>政策統括官付 労働政策担当参事官室 <b>長谷川 貴也</b></p>  <p>日々サークル活動などで汗をたらした大学時代が終わり、厚生労働省で働き始めて、1年がまもなく経ちます。日々楽しいばかりではなく、強く葛藤を感じることも重ねてきました。</p> <p>私が働いているのは、労働政策担当参事官室というところ。厚生労働省の労働政策の取りまとめを行い、省としての窓を担当しています。例えば、経済対策や、新成長戦略の関係で省内をまとめ、日々内閣府等との折衝を行っています。とんでもない緊急案件や無理を押しつけられ辛い折衝をしなければならぬこともあるけど、成果物を目の当たりにした時は、これが世の中に出るのだと、ついつい心が躍ってしまいます。</p>	<p>雇用均等・児童家庭局 総務課 <b>広瀬 哲郎</b></p>  <p>入省して改めて感じたことは、厚生労働省の仕事が国民生活に与える影響力の大きさです。私は、児童福祉行政を担う部局に所属していますが、数メートル先のテーブルで、新聞やテレビを賑わす子ども手当などについて議論されていることが、非常に刺激的です。まだまだ分からないことばかりですが、努力して積極的に取り組みさえすれば、厚生労働省は大きな仕事をやるチャンスに満ちた職場だと思います。「良い国を創りたい」という情熱をお持ちの皆様のお越しを心よりお待ちしております。</p>	<p>医政局 医事課 <b>舟津 謙一</b></p>  <p>厚生労働省で働いてみて思ったことは「忙しい」ということです。みなさんも話には聞いていると思いますが、実際に結構忙しいです。でもこれはグチではありません。忙しくて良かった面の方が大きいと思っています。仕事が多いので1年目でも色々なことを任せてもらえ、自分の意見もしっかりと聞いてもらえます。また、視点を変えれば、それだけ国民に必要とされ、注目されている役所だとも言えます。本当にやりがいのある職場だと思いますので、みなさんも是非厚生労働省に入省しましょう。</p>
<p>職業安定局 雇用政策課 <b>前川 佑作</b></p>  <p>「僕は運良く不自由のない環境に生まれたけど、そうでない人もいるんだよな」その程度の浅薄な考えしか持たないちゃらんぼらんだっただ高校生の頃、テレビに映る極貧の母子家庭の姿に途方もない衝撃を受けた私は、やがて社会保障という一つの答えに辿り着き、厚生労働省を志望しました。人の命や幸福を左右する以上、重責を伴いますが、ここまで本気になる職場も無いのではと思っています。ただただ思いをぶつける夢想家の私に「来て欲しい」と言ってくれた面接官に、あの時とは違う、実現性のある提案が出来る人材となって再会したい。そんな目標も密かに持ちつつ、今日も目を回しています。</p>	<p>医政局 総務課 <b>室 大輔</b></p>  <p>「一人でも多くの方が明日への希望を実感できる社会作りには貢献したい」という思いを胸に入省してから、1年が経ちました。職務を通して本当に様々な経験させていただきながら、職責の重さと積み重ねの重要性を強く噛みしめる日々を過ごしています。</p> <p>厚生労働省は、これからも数多くの喫緊の課題に直面し続けることになると思われます。限られた資源の中、一人でも多くの人々の生活を後押しできるような取組を実現するために、皆様の力をお貸しいただければ幸いです。来省を心よりお待ちしております！</p>	<p>職業安定局 派遣・有期労働対策部 企画課 <b>森 朝哉</b></p>  <p>国民1人1人の生きる環境が様々な意味で多様化している中で、それぞれの方が自分の人生を心から楽しみ、幸せだと思えるような社会にしたいと思い厚生労働省へ入省しました。</p> <p>まだまだ1年生の自分にできる事は本当に少なく苦しいときもありますが、国民の生活に最も密接に関わる厚生労働省の役割に誇りを持ち、頼もしくも優しい先輩方に支えられながら日々の業務と向き合っています。同じような思いを抱いている方々と一緒に働ける日を楽しみにしていますので、是非厚生労働省の門を叩いてみて下さい。</p>
<p>社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 <b>横田 正明</b></p>  <p>入省してから早一年。目の前の業務に追われて大局を見失いがちですが、仕事の出来る上司や同僚に助けられながら、なんとかやってきました。障害者福祉分野に携わり、様々な経験を重ねる中で、制度の在り方について色々と考えさせられます。失敗したり落ち込んだりすることもあります。誰かが安心して生活できるような社会を実現したい」という初心を忘れないようにしつつ、今日も仕事のメールをさばきます。</p>	<p>政策統括官付 労政担当参事官室 <b>横山 悠里恵</b></p>  <p>就職先は悩みましたが、それまでに生の有限さを実感させられる機会が度々あり、せつかつならいるいろいろな人の生活や自己実現を支える政策に関わりたくて、厚生労働省を選びました。今、労働組合など企業と労働者の関係を見ている部署にいます。先輩方に見守られながら、法令のQ&amp;Aを改定したり、企業訪問したり、海外の制度を調べたり、1年生でも様々なことに挑戦させてもらえました。あなたのエネルギーも、みんなの暮らしのために使ってみませんか。厚生労働省でお待ちしております！</p>	<p>職業安定局 雇用保険課 <b>米澤 祐介</b></p>  <p>入省して1年、感じたのは、日々たくさんの「人」に支えられて仕事をしているということ。不安を分かち合える同期や日々指導してくれる先輩に支えられ、毎日頑張っています。たくさんの「人」と接し、協力していくのが厚生労働省の仕事だと思います。</p> <p>この「人」との関わりを大切にしていきたいというのが今の私のモットーであり、様々なハンデを抱えた人が様々な「人」と関わり笑顔で生活できる社会を作っていきたい、というのが目標です。皆さんも是非、厚生労働省の「人」に触れてみてください。</p>

# 平成22年度入省者へのアンケート



平成22年度入省のゴールドルーキー達に、入省後の感想などについてアンケートをとりました。  
1年目職員の本音を覗いてみて下さい。

## ① 入省前後で厚生労働省のイメージは変わりましたか？

《変わらない》

- 今も昔も「幅が広い」って思ってます
- 立派な大人に遭遇する確率が高い!

《変わった》

- こんなに1分1秒で状況が変わり、走り回る(言葉通りの意味で)職場だとは思わなかった
- 思っていたよりとてもフラットな職場
- 若手職員が生き生きとしている
- めがねで色白な人が多いイメージであったが、草食系から肉食系まで、思った以上にいろいろな人がいる
- 想像以上に日本国政府内において存在感が大きい
- 思っていたよりも気さくで面白い人が多かった

## ② 役人になったな~と思う瞬間は？

- 国会の廊下を局長の後ろについて歩いたとき
- 霞ヶ関で電車を降りるとき
- 法令解釈の問い合わせを電話で受けているとき
- 「等」を多用するとき
- 大使館の方から電話があったり、海外の中央省庁の方が頻繁に来訪されるとき
- 人に細かく質問しているとき

## ③ 厚生労働省を一言で言うと？

- でかい
- 意味のある仕事ができる職場
- 働きマンの集まり
- 桜梅桃李
- 話題に事欠かない
- 一言でなんて無理

## ④ 厚生労働省に入って良かったことは？

- これから何十年も仕事に対する興味が尽きそうにないこと
- 自分の頑張り次第で、自分に無限大の可能性が与えられた(と思う)
- なんだかんだ優しい人が多い
- 色々な職種の人と仕事ができること。霞ヶ関で一番多様な人材がそろっていると思う。
- 日々刺激が多い
- 自分が世の中の役に立っている気がする

## ⑤ 厚生労働省のここを直したい!

- ワークライフバランスをもっと重視したい
- もっと外の人とコミュニケーションとれるようにしたい。自分についても直さなければならぬところですが…
- HPが見づらい(←最近新しくなりました!)
- 職種の壁を無くすこと。ポストを職種で固定しない組織にしていきたい。
- 食堂でもっとうまい飯が食いたい

## ⑥ 1年でこんな経験しました!

- 大臣室で疲れた顔をしていると、大臣にねぎらいの言葉をかけられた。
- 建設中の東京スカイツリーの490mあたりを視察
- 裁判で被告席に座った
- 記者に説明したものがそのまま記事になった
- シンガポールの投資家達に今後の診療報酬の改定について説明をした
- ひと冬で10kg太った。
- 大臣レクをしている係長の所に「戸籍法」の資料を持っていったら、「国籍法」だった。18階と10階の間をダッシュで往復した。過酷だった。

## ⑦ 学生時代にこれをしておけば良かった…

- 世界の車窓から
- 英語
- もっと多様なバイトをしておけば良かった。ガテン系とか。
- たくさん人脈をつくる
- 遊ぶこと
- 本当にもっと色々勉強しておけばよかった
- 意外とよく使う行政法をきちんと勉強すること
- 古典(主に哲学書)を読む

## ⑧ ストレス解消法は？

- カラオケ
- 大人買い
- 休日に自転車に乗って土手を走る
- 可愛い女の子と遊ぶ
- 毎週旅行
- 帰宅してから料理する。お風呂を沸かしてバスボム入れてゆっくり入る。
- 一年経ったら全て過去!と唱える

## ⑨ 今後の目標は？

- 今の課長とか補佐みたいに楽しそうに仕事ができるようになりたい
- とにかく語学をやること。早く戦力になること!
- 怖じ気づかないで、積極的に仕事に取り組む
- 片づけ上手になる(PCもデスクも…)
- 今夏予定の地方研修で、現場の実情をしっかりと勉強する
- 今やってる趣味で、大学時代にやれなかったことを実現する
- 楽しい人生をおくる
- 入省前に抱いていた思いを形にする